

軽量キャストブルの粒度試験方法

Testing method for grain size of
light weight castable refractories

1. **適用範囲** この規格は、軽量キャストブルの粒度試験方法について規定する。ただし、キャストブル耐火物は除く。

備考 この規格の引用規格を、次に示す。

JIS R 2651 軽量キャストブルの試験試料採取方法

JIS Z 8401 数値の丸め方

JIS Z 8801 標準ふるい

2. **試料** **JIS R 2651** によって所要量を採り、湿気を吸わないように注意しながら、試料の温度が室温に達した後試験に供する。

3. 装置

3.1 **試験機** ロータップ試験機を用いる。試験機は、毎分衝動 156 回、回転数 290 回を原則とする。

3.2 **標準ふるい** **JIS Z 8801** に規定する標準網ふるいを用いる。ただし、枠の大きさは内径 200mm とし、ふるい面からの枠の高さは 45mm を原則とする。

3.3 はかり及び分銅

3.3.1 使用するはかりの種類、ひょう（秤）量⁽¹⁾及び感量⁽²⁾は、表 1 による。

注⁽¹⁾ ひょう量とは、計量法に規定された、はかることのできる最大量をいう。

⁽²⁾ 感量とは、計量法に規定された、はかることのできる最小量をいう。

表 1

種類	ひょう量	感量
上皿はかり	1kg	1 g
	500g	0.5g
	200g	0.2g
	100g	0.1g

3.3.2 分銅は、普通分銅⁽³⁾を用いる。

注⁽³⁾ 普通分銅とは、計量法に基づく計量器検定令第8条5号イによるものである。

4. 操作

(1) 試料約 200g を上皿はかりで 0.5g まではかり採る。

(2) 所要標準網ふるいのうち、ふるい目の開きの大きいものから取り、その中のふるい目の開きの小さい

ものから順に受け皿の上に積み重ねて、それを試験機に取り付ける。

- (3) 最上部のふるいに(1)の試料を入れた後、試験機で5分間ふるい分ける。
- (4) 受け皿に入った試料を更に細かくふるい分ける場合には、これを所要のふるいに入れ、(3)の操作を繰り返す。
- (5) ふるい分けられた各ふるい上及び受け皿上の試料を上皿はかりで、0.5gまではかる。
- (6) 試料が操作中に減耗して(5)の試料合計の質量が最初の試料の質量の98%以下の場合は、再試験を行う。

5. 計算 各々のふるい上及び受け皿上の試料の質量 (g) を最初の試料の質量 (g) に対する百分率に換算し、JIS Z 8401 によって整数に丸める。

6. 報告 供試軽量キャストブルの粒度は、計算された値と、それがとどまった標準網ふるいのふるい目の開き及びその直前の標準網ふるいのふるい目の開きとを報告する。

報告例

標準網ふるいのふるい目の開き (μm)	計算値 (%)
$>A$	a
$A \sim B$	b
$\vdots$	$\vdots$
$X \sim Y$	y
$<Y$	z

備考 この例は、標準網ふるい $A\mu\text{m}$ に留まったもの $a\%$ 、標準網ふるい $A\mu\text{m}$ を通過し、標準網ふるい $B\mu\text{m}$ に留まったもの $b\%$ 、以下同様に最後に標準網ふるい $Y\mu\text{m}$ を通過して受け皿に留まったものが $z\%$ であることを示す。